

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
司法・犯罪心理学	HSP32-015	選択	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
鈴木 真吾	B309	shsuzuki	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 司法に係る関連法制度の意義について理解でき、司法・犯罪分野で取り扱われる心理社会的課題とその心理的更生（支援）の実際を知る。司法・犯罪分野における心理社会的課題について、偏見なく客観的かつ複合的視野で理解して、その処遇・支援過程が把握できることを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt; 犯罪の原因について心理的要因を概観して、非行・犯罪への対応を心理行動的な種別ごとに概説する。加えて、裁判等の司法手続きにおける心理学の職務にも触れる。最後に被害者への心理的支援と加害者臨床（更生）という現代的テーマをも紹介する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	現場の事例や報道記事等の精読、また要対象・要支援者の立場を実感する質疑を行うことがある。非行・犯罪には必ず被害者がいる。短絡的な感情に囚われず、誠実さを抱いて参加することを切に望む。				
教科書	教科書は特に指定しない。				
参考書	「入門 司法・犯罪心理学—理論と現場を学ぶ」法と心理学会（監修）有斐閣				
外部教材	必要に応じて適宜紹介する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を理解できる。			HC (1) (3) (5)	
②	司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援を説明できる。			HC (1) (3) (5)	
③					
④					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	オリエンテーション：司法・犯罪心理学とは	講義	授業時提示の知識を復習して理解を定着させる。		2
2	犯罪の要因(1) 生物学的要因	講義・演習			4
3	犯罪の要因(2) 心理学的要因	講義・演習			4
4	犯罪の要因(3) 社会学的要因	講義・演習			4
5	対応(1) 非行とその処遇・更生	講義・演習			4
6	対応(2) DV の発生机序とその対応	講義・演習			4
7	対応(3) 虐待の原因・影響とその対応	講義・演習			4
8	対応(4) 物質・行動依存と犯罪との関連、その対応	講義・演習			4
9	対応(5) 窃盗・特殊詐欺・サイバー犯罪とその対応	講義・演習			4
10	司法手続きと心理学(1) 捜査・供述・精神鑑定	講義・演習			4
11	司法手続きと心理学(2) 司法面接と捜査面接	講義・演習			4
12	司法手続きと心理学(3) 目撃証言（記憶の性質）	講義・演習			4
13	司法手続きと心理学(4) 裁判で罪を裁く	講義・演習			4
14	処遇・更生・支援(1) 加害者臨床—施設・社会・個人	講義・演習			4
15	処遇・更生・支援(2) 被害者臨床—忘却・信頼・子ども	講義・演習			総復習を行い試験に備える。
試					

【2024 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		55	0	0	0	45	
総合力指標	知識・技術力	35	0	0	0	30	65
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	15	15
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	定期試験（筆記試験）を行う。講義中に提示したキーワードを回答させる設問、また習得した知識を活用して意見論述を行う設問を課す。配点 55 点満点の試験とする。				研究室にて答案を返却する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回、授業後に「授業で得た知識に基づき回答できる質疑」を意見記述するリアクションペーパーを提出してもらおう。その内容（思考）の質により、毎回 1 点または 3 点を提供する。全 15 回の総配点は 15 点~45 点となり得る。				Teams にて取扱い、コメントを付して返却する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	本科目の担当講師は、臨床心理士及び公認心理師資格を有し、20 年の心理相談業務の経験がある。						
実践的授業の内容	医療分野を主とした現場経験に加えて、犯罪・非行分野でのコンサルタント経験を活かして、司法・犯罪分野における心理学的意義を実感できる真摯な見識を学生に教授する。						
そ の 他	登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われ得る。						